

住宅リフォーム促進事業で9倍の経済効果

各区別の申請状況まとまる

昨年の11月からスタートした上越市の住宅リフォーム促進事業は前評判通りでした。3月末までを申請期間としていたものの、あつという間に予算額（5000万円）に到達し、いま、市内では様々な住宅リフォーム工事が行われています。

大きな波及効果

住宅リフォーム促進事業の申請件数は市全体で575件にのぼります。事業申請によりまずと、それぞれの事業費の総額は4億7420万円にもなりました。補助金額の9倍です。私たちが市議会で「何倍もの経済効果をもたらすのでぜひ実現してほしい」とのべてきた通りとなりました。この住宅リフォーム促進事業を受注したことで地元の関連業者のみなさんも大喜びです。

全国的にも実施自治体広がる

上越市のように、住宅をリフォーム（改修）

する住民に、自治体が一定額の補助をする「住宅リフォーム助成」制度は全国各地に広がっています。

全国商工団体連合会の調査では、現在29都道府県の175自治体が実施。このうち、昨年4月から新たに制度を創設したのが43自治体で、たいへんな勢いで増え続けています。

市民に笑顔を広げ、地元の小業者を潤し、地域の経済を元気にする。これこそ市が取り組むべき本当の経済対策です。ぜひ新年度も住宅リフォーム促進事業に取り組み、充実してほしいですね。

平均保育料は県内でトップ

保育料については国の基準があり、ほとんどの市町村がその国の基準よりも引き下げて徴収しています。



その引き下げた徴収額（調停額）の総額が、国の定める基準額に対してどのくらいの割合になっているかを新潟市がこのほど調べました。

その資料によると、なんとわが上越市は割引率で県内30番目となっていました。つまり、県内ではもともと平均保育料が高いということになります。

市では所得階層別に細かく保育料を設定していますので、平均保育料が高いことがそのまま「だれもが重い負担」ということにはなりません。全体として保育料が高

いことはまちがいありません。なんとかしなければなりません。

臨時市議会を24日開催へ

上越市議会の臨時会が今月の24日に行われます。議案は一般会計補正予算などが予定されています。

今臨時会では、新たな経済対策が提案される見込みです。市では12日に経済対策本部会議を開催する予定です。住宅リフォーム促進事業などこれまでの取り組みを中間総括し、今後の対策を決めていこうとしています。

日本共産党上越市議団では、新年度予算に対する要望書でも雇用と中小企業を守る提案をしたところですが、ぜひ皆さんからも提案を寄せてください。



県立吉川高等特別支援学校の工事がほぼ終わりました。4月からまた生徒の声が聞こえます。

お盆と正月、母は大忙しです。わが家にやってくるお客さんに手料理を食べてもらうと一生懸命なのです。年末から年始にかけては次男夫婦が帰省したので、大張りきりでした。

大晦日の晩は、旅行に出かけた長女以外の家族全員が集まった夕飯となりました。居間のコタツのテーブルの上には、ゼンマイの煮しめ、コンニャク、ヤーコンなどの漬物、青豆などが所狭しと並びました。みんな母が用意したものです。

出された食べ物はいつもとほぼ同じものですが、食べ始めてから、みんなが次々と「うまい」と言うものですから母の顔はゆるみつ放しです。テーブルの上の食べ物には、豆腐と下中条のSさんがくれたハリハリ漬けをのぞき、すべて母が山で採ってきたものか畑で栽培したものばかり。ゼンマイは近くの山で採ったものですし、チンゲンサイ、青豆、光かぶなどは母が畑で丹精込めて育てたものです。

料理の方ももちろん母の手によるものです。この夜、母はめずらしく「これ、みんな、おれ作ったがだ」と言いました。育てる段階から料理の段階まですべて自分がかかわってきたという意味なのでしょうが、とてもうれしそうです。そして料理の一つひとつを説明してくれました。「この大根の漬物は一週間強く漬けておいて切ったもんだ」「梅干しで作ったこれは、種をとって梅の肉とシソの葉を入れて軽く炒めたもの。まんまにぬたつたくって食べるとうんまいど」こんな調子です。

わが家の子どもたちは母の料理が大好きで、親しみを込めて「ばあちゃん料理」と呼んでいます。大晦日の晩はお酒やジュースなどはほとんど飲まず、ひたすら「ばあちゃん料理」を食べていました。私も好きな発泡酒を一缶飲んだだけ、あとは料理をゆつくりいただきました。

そうそう、大晦日の晩に初めて名前を教えてもらった豆がありました。乳白色でキラキラ光った甘い豆で、昔はワラつつとこ等に入れて食べた記憶があります。母によると、「ごろごろささぎ」と言うのだそうです。面白い名前なので、妻も子どもたちもみんなが何度も繰り返し呼び、憶えようとしていました。

年が明けた日。私が地元町内会の新年会、お寺まいりを済ませてコタツでごろ寝していると、直江津の実家で年を越した嫁さんとともに次男が居間に入ってきました。ちようどお昼時、またまた、母の出番です。

母は台所から次々と料理を運び、コタツのテーブルの上に並べました。この日の昼食は得意の漬物やコンニャクの煮付けだけでなく、赤飯もありました。「ごろごろささぎ」も出ています。次男の嫁さんが来るというので気合を入れたのでしょうか、「ばあちゃん料理」は大晦日の晩よりも品数が増えています。

母が赤飯を飯台の上に運んできて、さあ食べようという時、次男の嫁さんが思いついて、「じいちゃんのお参りをしなきゃ」と言いました。赤飯が上げられた仏壇の前で、若い二人は手を合わせました。父は母のつくる赤飯が好きでした。赤飯と若夫婦の姿を見て、父は大喜びしたと思います。

若夫婦はテーブルの上の食べ物を喜んで食べてくれました。食べきれなかった「ばあちゃん料理」はお土産にもなります。漬物やコンニャク料理はけっこう持ちますし、いうまでもなく、赤飯も大丈夫。母は惣菜パックに入れて、「さあ、持って行ってくんない」とやっています。父が逝って二度目の正月、母は今年も元気でです。

市民の暮らしを守る政治めざしてがんばります

日本共産党上越市議団は2日、2班に分かれて今年初めての街頭宣伝に取り組みました。

私は頸城区選出の上野公悦議員、旧大潟町議会議長の後藤紀一さんとともに頸城区、大潟区、吉川区などをまわりました。

私は、昨年、豪雪や竜巻被害対策などで市民の命を守ってきたこと、緊急経済対策のひとつとして議員団が求めてきた住宅リフォーム助成制度が実現したこと、議会基本条例づくりや中山間地域振興基本条例づくりなどでがんばってきたことなどを報告するとともに、1年間の市民のみなさんの支援にたいする感謝の気持ちを伝えました。そして新年は、県政や県議会を変えていく闘いがあること、13区の地域づくりに大きな影響をもたらしかねない地域事業費制度の見直し問題があると強調、市民のみなさんとともにいのちと暮らしを守っていききたいと訴えました。

正月早々からの私たちの訴えに、大勢のみなさんが手を振って応援してくださいました。中には家から飛び出してきた、「がんばってくれ」と激励してくださる方もありました。ありがとうございました。



日本共産党議員団主催の市民のみなさんとの懇談会にぜひご参加を！

市民の立場から見た時、今年の市政で大きなテーマのひとつは地域事業費制度の見直しにどう対応するかです。皆様のご意見をぜひお聞かせ下さい。

1月19日(水) 午後6時半 福祉交流プラザ

1月21日(金) 午後6時半 頸城コミュニティプラザ
(希望館ではありません。頸城総合事務所が入った建物です)